

# 上部消化管内視鏡(胃カメラ)検査 説明書

## 【検査前日および当日の注意事項】

### ※午前検査の場合

- 検査前日 月 日の 食事は夜9時までにはすませてください。  
この時間以降は、検査が終わるまで、何も食べないでください。



### ※午後検査の場合

- 検査前日 月 日の 食事は通常でかまいません。  
 検査当日は午前8時までに少量のおかゆのみ(何も具が入っていないものに限る)は食べてもかまいませんが、それ以外のものは食べないで下さい。

水分(水・お茶・スポーツドリンク) は、検査時間の2時間前まではお飲みいただいてかまいません。  
ご高齢の方は、ご家族様の付添をお願いいたします。

## 【病院に来院されたら】

- 当日は診察券と予約票を正面玄関右手側の中央受付に出していただき、⑧ 消化器病センター奥の内視鏡室前の椅子でお待ち下さい。
- 順番が来ましたら看護師がお呼びします。
- 検査同意書と問診票は、検査前に看護師にお渡しください。
- 予約時間より多少前後することがありますので、ご了承ください。

## 【上部消化管内視鏡(胃カメラ)検査の方法】

1. 消化器病センター 内視鏡室で検査を行います。
2. お名前をお呼びした方から順に内視鏡室で準備を行います。
3. 入れ歯の方は、はずしておいてください。
4. 胃の中の泡を消すシロップを飲んでいただきます。
5. のどの奥に薬をスプレーします。これは、胃カメラ(大人の小指くらいの太さ)を飲みこみやすいように、のどの奥をしびれさせる薬です。
6. ベッドに体の左側を下にして、横になります。メガネの方ははずしてください。
7. 胃の動きを抑え、緊張を和らげるための注射をします。
8. 胃カメラを入れやすくするため、マウスピースを口ではさんでいただきます。
9. 緊張なさらず、体の力を抜いてください。検査時間は15～20分です。  
気分がすぐれない場合はお知らせください。
10. 検査中に必要ならば、小さな組織を採取します。これを顕微鏡検査で良性か悪性か判断します。  
(結果が出るまで2～3週間くらいかかります。)
11. 検査終了後、鎮静剤を使用した方はベッドのまましばらくお休みいただきます。その後ゆっくりと起き上がってください。気分のすぐれない方、眠気のある方は、休息を十分とってください。必要であれば点滴注射をする場合もあります。



**検査後、異常のある方はすぐにお申し出ください**

## 【検査終了後の注意事項】

- 検査の薬でどろどろがしびれていますので、誤嚥の危険があります。  
飲食は検査終了後1～2時間は控えてください。
- 休憩して気分が良くなれば帰宅して頂いてもかまいません。
- 検査時に鎮静剤を使用しますので、個人差はありますが半日ほど眠気やフラフラ感が続くことがあります。  
ご自身での車・バイク・自転車の運転は非常に危険ですので、送迎か公共機関をご利用ください。  
ご自身で車・バイク・自転車を運転されご来院された場合、鎮静剤は使用できませんので、ご了承ください。
- 患者様の状態に応じて点滴注射をする場合もあります。
- 検査後の自宅での安静は、治療の内容によって異なります。  
検査後の説明をよくお聞きになり、注意事項をお守りください。
- 検査時、青色の色素を使用していますので青色の便が出ることもありますが心配いりません。
- 生検(組織検査)をされた方は、検査結果が出るのに2～3週間程度かかります。  
消化器病センター受付で、次回受診日の予約をお取りください。



## 【検査費用について】

- 窓口での負担は、外来で当日帰宅できる方は3割負担で4,000円～15,000円程度となります。  
検査時に病理組織やポリープを採取した場合、診断上必要な時は「特殊染色」を行い、より詳しい検査が必要になる場合があります。その際は1,200～6,000円程度追加請求させていただきますので御了承ください。  
診断等の詳しい内容については医師へお問い合わせください。

## 【検査の目的】

今回受けられる検査は一般に『胃カメラ』と呼ばれる検査です。上部消化管(食道・胃・十二指腸)にできる病気を見つけ、適切な治療方法を考えるために行います。

## 【検査内容】

上部消化管を検査するためには、レントゲン検査と上部内視鏡検査(胃カメラ)とがあります。  
レントゲン検査の場合は、「胃透視検査」で、放射線をあててバリウムが付着した上部消化管の壁の表面を観察して病変を見つけます。一般に胃透視検査は胃の全体の観察に有用です。上部内視鏡検査は、消化管粘膜を直接目で見ることができます。ポリープ(いぼのように隆起した病変)やただれ・炎症・がん・潰瘍・食道静脈瘤など、表面の盛り上がりや凹んだりする変化や、まったく平坦な病変も色を付けることにより発見することができます。また組織を採取して病理検査に出し、確実な診断をすることができます。

## 【検査前の血液検査】

検査を行う前に偶発症・合併症の予防、感染症(肝炎・梅毒等)の有無を事前に調べます。感染症の検査が陽性だった場合でも、当院では日本内視鏡学会洗浄消毒のガイドラインに沿って胃電子スコープを洗浄・消毒をしておりますので、通常と変わりなく検査を受けていただけます。  
※ワーファリン服用の方は、検査当日、血液検査をさせていただきます。

## 【検査に使用する薬】

検査に対する不安や緊張を和らげたり、痛みを和らげるために当院では薬剤を使用します。このため、現在服用中の薬と併用使用すると重篤な副作用(呼吸抑制、血圧低下、ショックなど)が起こりうる可能性があります。その他の副作用としては、悪心、嘔吐、口渇、健忘、目の調節障害、頻脈、尿閉などもみられる場合があります。

胃の動きを抑えるために検査中にペパーミントオイル(ハッカ)を胃の中に散布します。副作用は報告されていませんが、気分不快なことや、使用を希望されない方はお申し出ください。

### 【検査に伴う偶発症・合併症について】

胃カメラの偶発症・合併症として、次のようなことが起こりうるものが報告されています。

1. 穿孔(せんこう:胃に孔があくこと)、出血
2. 局所麻酔薬中毒
3. 検査後急性胃炎
4. スコープによる粘膜損傷
5. 検査前にあった病気の悪化
6. 検査時に使用する薬剤の副作用
7. その他

偶発症・合併症の発生率は0.012%、死亡者は0.00076%と報告されています。また、スコープが擦れることにより、2～3日のどに痛みを感じる場合があります。その他、まれに鎮静剤の影響で検査を行ったことを忘れる方もいます。

### 【内視鏡検査中に必要に応じ次のような処置を行うことがあります】

1. 生検、細胞診:組織検査のため、粘膜の一部を内視鏡を通じて挿入したカンシやブラシで採取します。
2. 止血処置:出血がみられた時に行います。
3. 色素散布:消化管の内視鏡検査で粘膜の凹凸や性状の変化をより詳しく観察するために粘膜に色素を噴霧することがあります。

### 【現在服用されているお薬について】

お薬を飲んでいる方は、必ず看護師にお申し出ください。お申し出がなく検査を行った場合、重い合併症(出血や血圧低下など)を引き起こすことがあります。特に血液をさらさらにする薬(抗凝固剤)や血糖値を下げる薬(糖尿病の薬)が該当します。

お薬によっては検査前1日～数日間、服用を中止していただく場合があります。

これにより治療中の病気が悪化する場合や合併症が起こることもあります。治療を担当している主治医と相談の上、服用を中止するかどうか、中止の期間を決定します。必ず内服中の薬をご連絡ください。検査日までに薬が増えたり、変わった場合も必ずお知らせください。薬物アレルギーのある方はお申し出ください。

※抗凝固剤を服用の方は、服用を中止せずに検査を行なっています。



次の薬は、決められた期間はお飲みにならないでください。

: 月 日 ～ 月 日

: 月 日 ～ 月 日

: 月 日 ～ 月 日

再開される日程は、検査後にお知らせします。

検査のための準備が出来なかった方・ご都合により検査が受けられない場合は日程の変更をしますので早めにご連絡ください。  
検査や準備について不明なこと、不安なことがありましたら下記までご連絡ください。

医療機関名

電話

\_\_\_\_\_

# 上部消化器内視鏡検査同意書

上部消化管内視鏡観察検査の目的、必要性、方法、危険性について 年 月 日 に

患者 様と 同席者 様に説明いたしました。

1. 検査の内容
2. 検査に伴う偶発性・合併症
3. 検査中の処置について
4. 鎮静剤の使用について
5. 緊急事態、偶発症・合併症が発生した場合の処置・治療

医療機関名

医師

同席者

私は、 年 月 日に上部消化管内視鏡検査の目的、必要性、方法、危険性について別紙記載事項を読み、また医師よりの説明を受けました。

\* 年 月 日に健生会土庫病院にて上部消化管内視鏡検査を受けることに  
(  同意します ・  同意しません )

\* 上部消化管内視鏡検査に伴い、鎮静剤の使用について  
(  同意します ・  同意しません )

\* 万一、緊急事態、偶発症・合併症が発生した場合には、適切な処置・治療を受けることに  
(  同意します ・  同意しません )

年 月 日

本人署名

印

( 親権者 印 続柄 )

検査・治療に同意いただける場合は署名をしていただき、検査・治療当日に問診票と一緒にご持参ください。

万一、緊急事態、偶発症・合併症が発生した場合には入院や緊急の処置・手術などの適切な処置・治療を行います。